



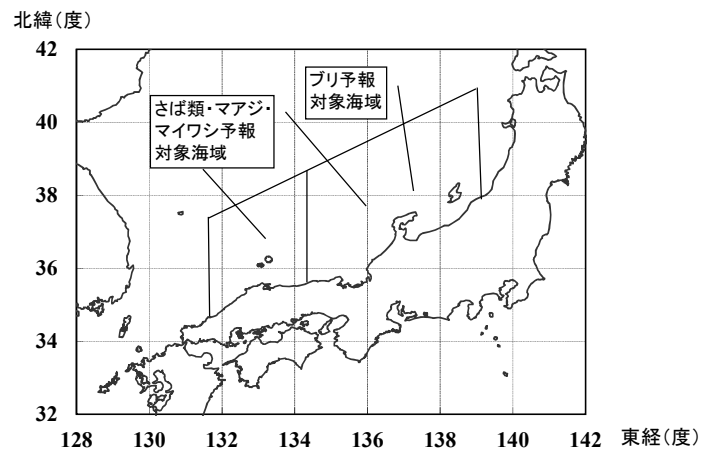
2019年度 日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(2019年11月～2020年3月)のポイント

漁況(来遊量)

- (1) さば類(島根県～新潟県)
前年を下回る
- (2) マアジ(島根県～新潟県)
前年並
- (3) マイワシ(島根県～新潟県)
不漁の前年を上回る
- (4) ブリ(兵庫県～新潟県)
0歳魚は前年を上回る
2歳以上魚は前年並



※「前年」は2018年11月～2019年3月

※予報期間におけるブリの1歳魚は、主漁期から外れ漁獲量が少ないため、予測対象から除外

問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 日本海区水産研究所

担当：業務推進部 永澤、後藤

担当：資源管理部 川端、久保田、松倉、古川

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/>

2019年度 日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報

今後の見通し（2019年11月～2020年3月）

1. さば類（島根県～新潟県）
0歳魚（2019年級群）と1歳魚（2018年級群）が主体、来遊量は前年を下回る
2. マアジ（島根県～新潟県）
0歳魚（2019年級群）と1歳魚（2018年級群）が主体、来遊量は前年並
3. マイワシ（島根県～新潟県）
1歳（2018年級群）以上魚が主体、来遊量は不漁の前年を上回る
4. ブリ（兵庫県～新潟県）
0歳魚（2019年級群）：前年を上回る
2歳以上魚（2017以前年級群）：前年並

※「前年」は2018年11月～2019年3月

※予報期間におけるブリの1歳魚は、主漁期から外れ漁獲量が少ないため、予測対象から除外

I 予報の説明

漁況の経過（2019年1月～9月）および今後の見通し

1. さば類（図1、図2）

●2019年1月～9月の経過

島根県～新潟県の主要港におけるさば類の漁獲量は、近年では2011年～2012年、2014年～2018年で多く、2010年と2013年で少なかった。1月～9月の漁獲量は、2018年に2001年以降で最大の44,200トンであったが、2019年では23,200トンで、前年同期の52%、過去5年（2014年～2018年）平均（25,700トン）の90%となった。

2018年漁獲動向を海域・漁法別に見ると、全体に占める割合が最も大きい鳥取県および島根県（両県ともまき網）では、主漁期（1月～4月）の漁獲量（16,700トン）は前年同期の54%、過去5年平均並で、5月～9月（2,300トン）は前年同期の26%、過去5年平均の61%に減少した。中部以北（主体は石川県と新潟県）におけるまき網などでは、例年まとまった漁獲のある1月～4月では不漁の前年の4.7倍で過去5年平均並となり、5月～9月では好漁であった前年同期の45%、過去5年平均並であった。1月～9月の漁獲量（2,400トン）は前年同期の80%、過去5年平均並であった。兵庫県以北の定置網における2019年1月～9月の漁獲量（1,800トン）は、前年同期の1.2倍、過去5年平均の71%であった。

●資源状態と年級群の豊度

「2019年度 第1回 対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁況予報」（水産研究・教育機構）によると、マサバ対馬暖流系群の年級群毎の豊度は、2017年級群は2016年級群を上回り、2018年級群は2017年級群を下回るとみられる。また、2019年級群は2018年級群を下回るとみられる。

●今後の見通しについて

本海域の漁獲量は鳥取県および島根県のまき網の占める割合が大きく、11月～3月には0歳魚と1歳魚が漁獲の主体となる。年級群豊度は0歳魚（2019年級群）、1歳魚（2018年級群）ともに前年を下回ると推測され、また9月までの漁況も前年を下回っているため、今期の来遊量は前年を下回ると予測される。

2. マアジ（図3～図5）

●2019年1月～9月の経過

日本海のマアジは主にまき網と定置網によって漁獲されており、2003年～2018年における島根県～新潟県の主要港における漁獲量は、22,100～68,300トンの範囲で推移した。2018年の漁獲量は2002年以降で最低であ

った2017年の漁獲量26,900トンを下回り22,100トンであった。2019年1月～9月の漁獲量は18,600トンで、前年同期(19,000トン)と同程度であった。

●資源状態と年級群の豊度

日本海で漁獲されるマアジは対馬暖流系群の一部である。漁獲の動向は同系群の資源状態と密接に関わっており、0歳魚と1歳魚が主に漁獲される。新規加入する0歳魚を主対象として、2003年以降、日本海西部海域にてマアジの新規加入量調査を実施しており、その結果からマアジの加入量指標値(来遊の多寡)を算出している。来遊量の多かった2003年を1としたとき、2019年は0.70(暫定値)で、2018年と同程度であり、2019年級群の豊度は2018年級群と同程度であることが推察された。

●今後の見通しについて

予報期間(11月～3月)における日本海では、例年0歳魚と1歳魚が主体で2歳以上魚も漁獲されている。2019年の加入量指標値は前年と同程度であり、0歳魚(2019年級群)の豊度は1歳魚(2018年級群)と同程度と予想される。「2019年度第1回対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁海況予報」(水産研究・教育機構)によると、1歳魚(2018年級群)の豊度は前年並、2歳魚(2017年級群)の豊度は前年を下回るとみられる。また、2018年1月～9月の漁獲量は前年と同程度であった。以上のことから、予報期間における0歳魚および1歳魚の豊度は前年並、2歳魚の豊度は前年を下回ると考えられ、来遊量は前年並と予測される。

3. マイワシ(図6、図7)

●2019年1月～9月の経過

日本海におけるマイワシの漁獲量(1月～12月計)は2010年までゆるやかに増加傾向を示していたが、2011年に急増し30,000トンを越えた。以降、極めて漁獲量が少なかった2014年を除き、20,000トン以上の漁獲が継続した。2018年1月～9月の漁獲量は2001年以降で最高であったが、2018年11月～2019年3月の漁獲は830トンと、過去5年平均(11,800トン)と比べ極めて少なくなった。2019年冬春季は、例年より遅れて4月以降に来遊があったものの、1月～9月の漁獲量は12,700トンに留まり、1月～9月の漁獲量としては2011年以降で2014年に次いで低い量となった。

●資源状態と年級群の豊度

「2019年度第1回対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁海況予報」(水産研究・教育機構)によると、1歳魚(2018年級群)は2017年級群を上回り、0歳魚(2019年級群)は2018年級群を下回ると考えられる。なお、令和元年度の資源評価案では、マイワシ対馬暖流系群の資源水準・動向は中位・増加傾向である。

●今後の見通しについて

例年、予測期間の中で漁獲が多いのは1月以降で、2歳以上魚の産卵親魚を主体に1歳魚も漁獲される。資源量および日本海での漁獲量は増加傾向である中、2018年11月～2019年3月の漁獲は極めて少なくなった。来遊には海況の影響が大きいと考えられるが、現段階で得られる情報は対馬暖流域の水温で、10月中旬～12月は前年並と予測され(2019年度第3回日本海漁況予報、水産研究・教育機構)、1月以降は予測されていない。以上の状況から、今期の来遊量は、少なくとも不漁であった前年を上回ると予測される。

4. ブリ(図8～図10)

●2019年1月～9月の経過

2000年～2018年における兵庫県～新潟県の主要定置網の年間漁獲量は2,100～12,200トンで、2014年(11,000トン)以降は前年の2018年(5,300トン)まで毎年減少を続けていた。2019年1月～9月の漁獲量は5,600トンで、前年の年間漁獲量および前年同期の漁獲量(3,800トン)を上回ったが、過去5年(2014年～2018年)平均(6,000トン)を下回った。

2019年の年齢別の漁況経過をみると、0歳魚の漁獲量(7月～9月)は1,400トンで、前年同期(700トン)と過去5年平均(800トン)を上回った。1歳魚の漁獲量(4月～9月)は1,300トンで、前年同期(800トン)を上回ったが、過去5年平均(3,000トン)を下回った。2歳以上魚の漁獲量(4月～9月)は1,800トンで、前年同期(1,700トン)並で、過去5年平均(1,400トン)を上回った。

●資源状態と年級群の豊度および今後の見通しについて

2019年級群である7月～9月の0歳魚の漁獲量は前年を上回ったことから、11月～3月の0歳魚の来遊量は前年を上回ると予測される。

1歳魚(2018年級群)の予報対象海域における主漁期は4月～8月であり、予報期間中の漁獲量の過去5年平均は200トン(範囲は100～300トン)であるため、予測対象から除外した。

2歳以上魚(2017以前年級群)の4月～9月の漁獲量が前年並であったため、11月～3月の2歳以上魚の来遊量は前年並と予測される。

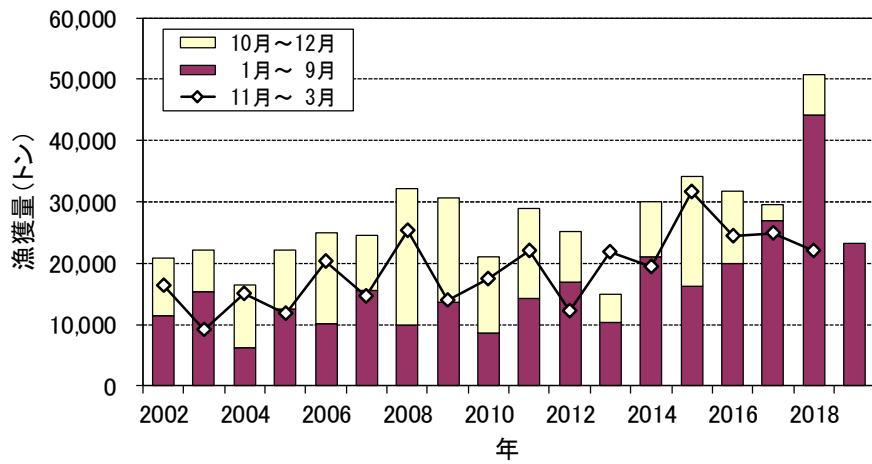


図1 島根県～新潟県におけるさば類の漁獲量の推移（2019年は9月まで）
折線は予報期間と同じ11月～翌年3月の合計。

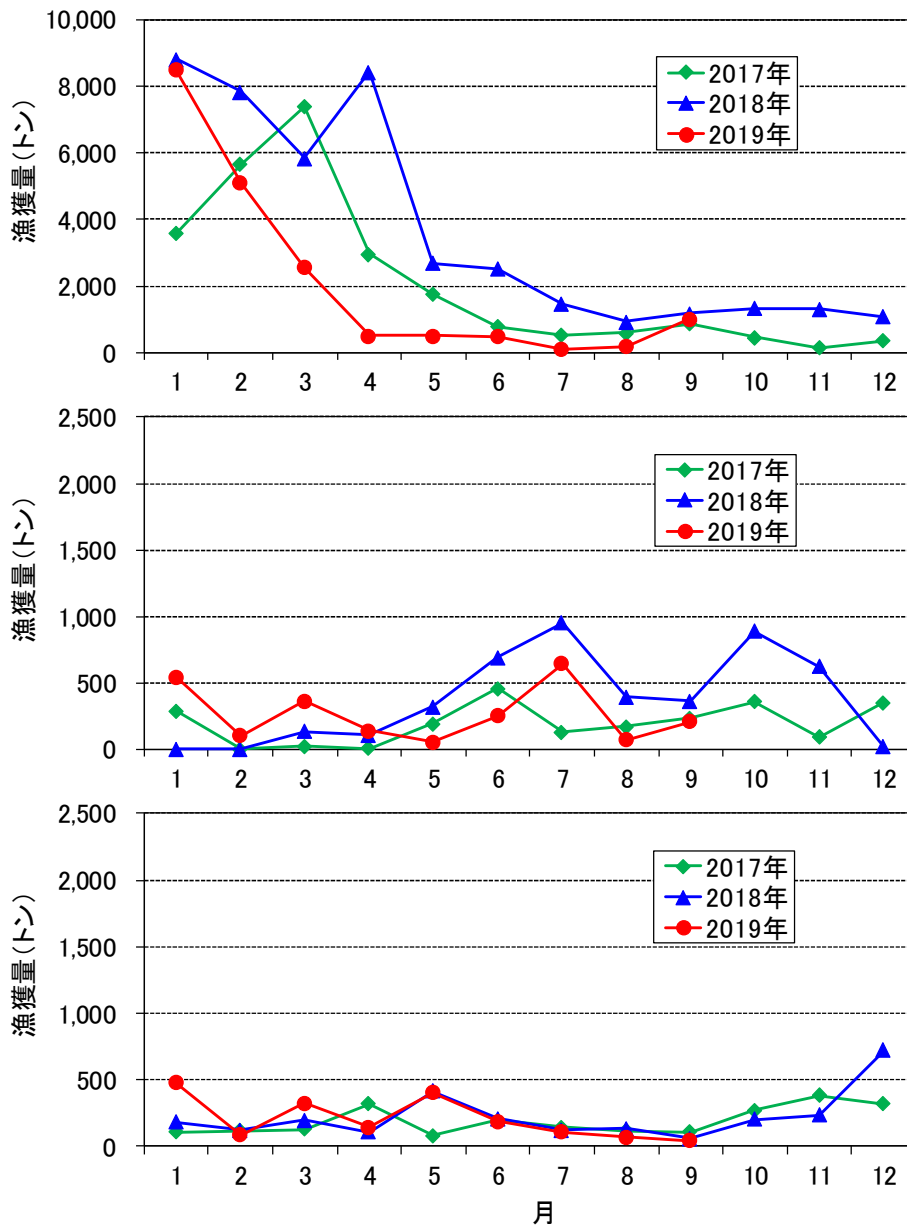


図2 2017年～2019年におけるさば類の月別漁獲量の推移（2019年は9月まで）
上：島根県～鳥取県（まき網）
中：兵庫県～新潟県（まき網ほか：定置網以外を集計）
下：兵庫県～新潟県（定置網）

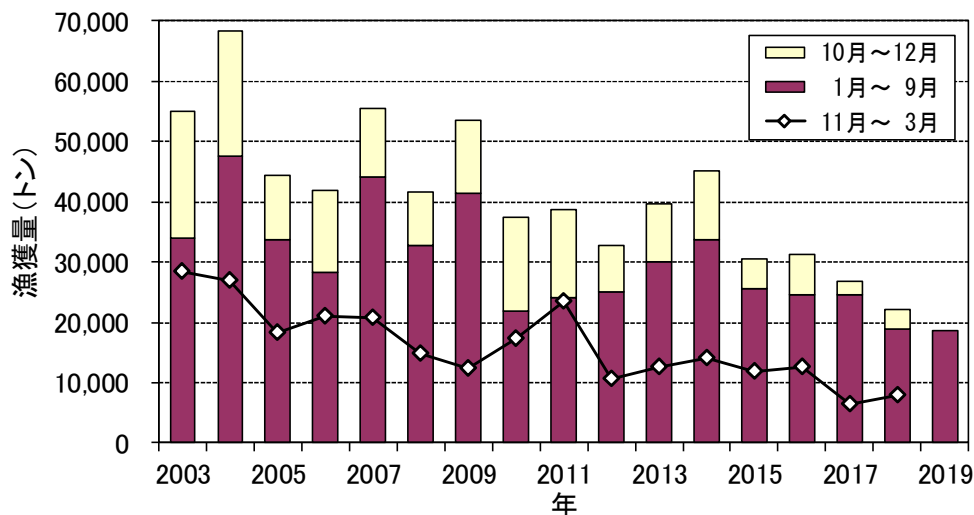


図3 島根県～新潟県におけるマアジの漁獲量の推移（2019年は9月まで）
折線は予報期間と同じ11月～翌年3月の合計。

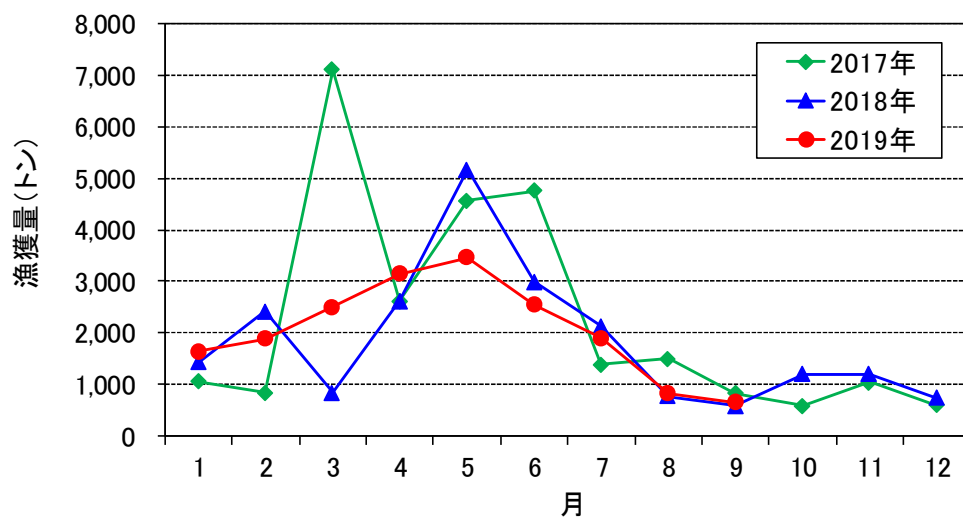


図4 2017年～2019年の島根県～新潟県におけるマアジの月別漁獲量の推移（2019年は9月まで）

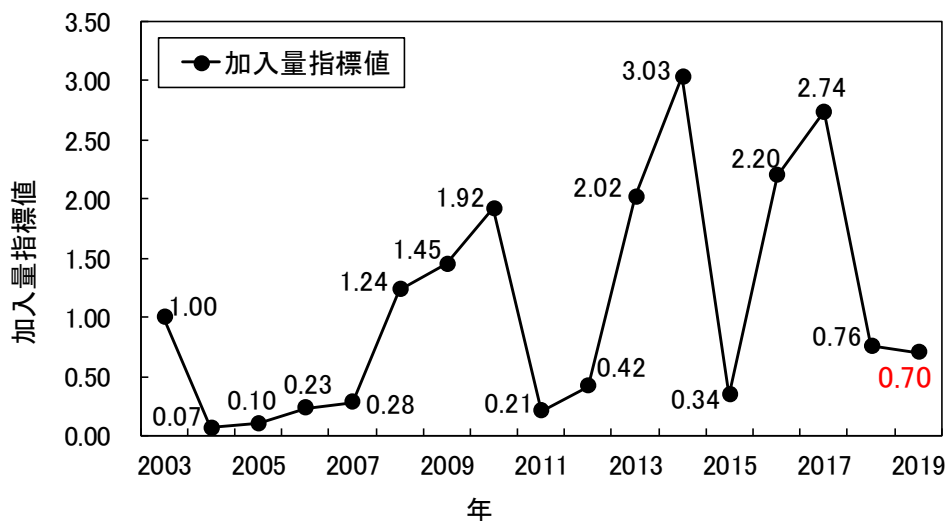


図5 新規加入量調査によるマアジ加入量指標値の推移（2003年を1とした）

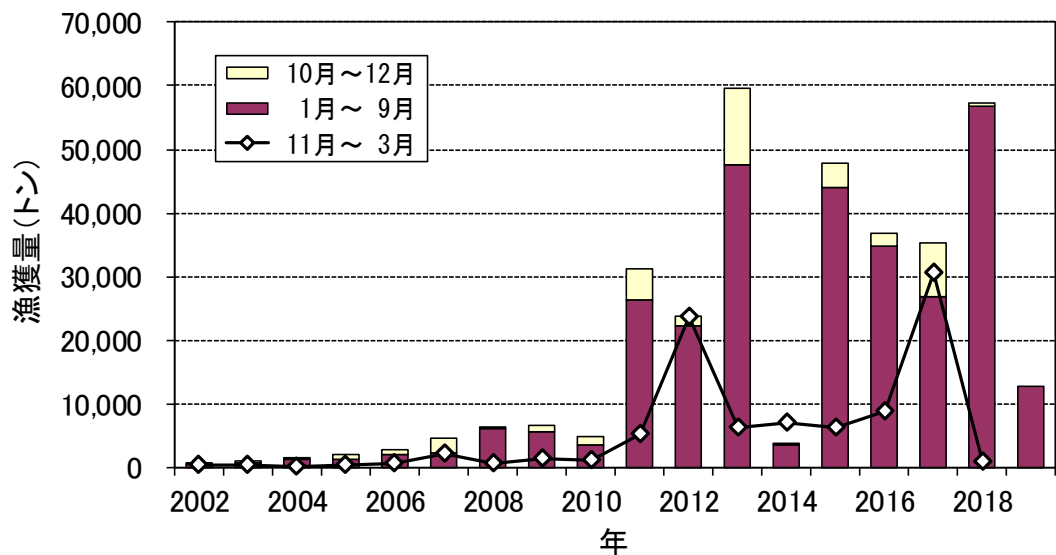


図6 島根県～新潟県におけるマイワシの漁獲量の推移（2019年は9月まで）
折線は予報期間と同じ11月～翌年3月の合計。

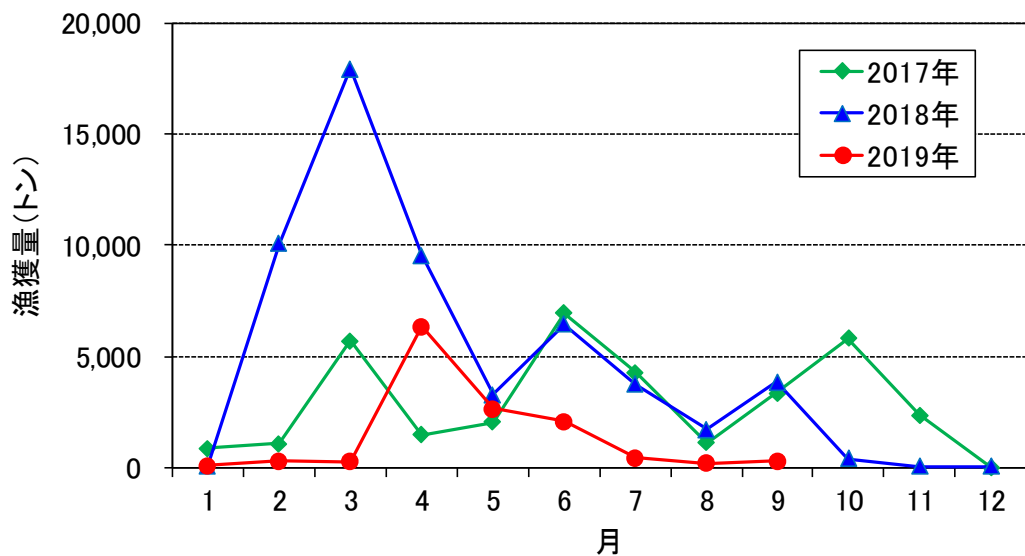


図7 2017年～2019年の島根県～新潟県におけるマイワシの月別漁獲量の推移
(2019年は9月まで)

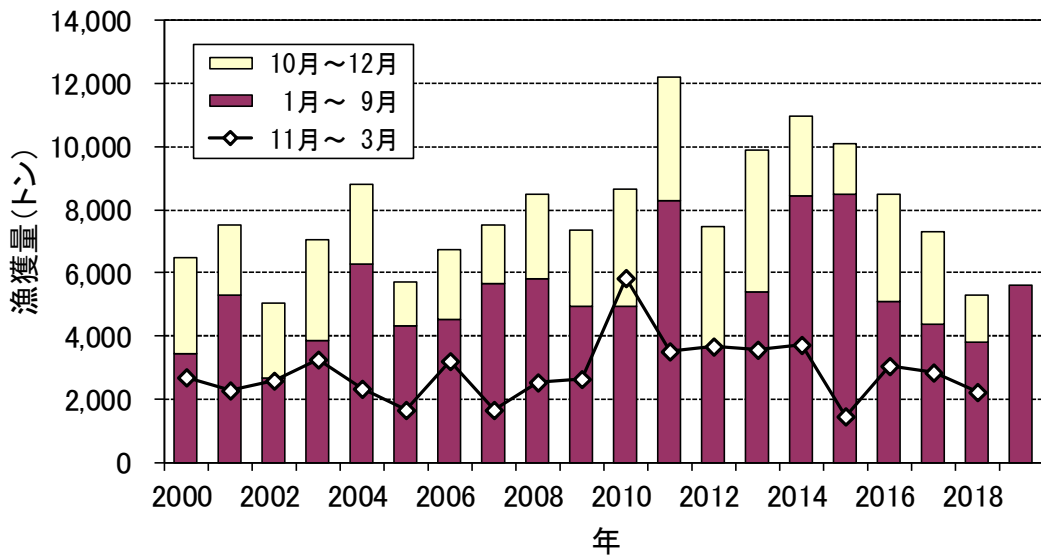


図8 兵庫県～新潟県の主要港におけるブリの定置網漁獲量の推移（2019年は9月まで）
折線は予報期間と同じ11月～翌年3月の合計。

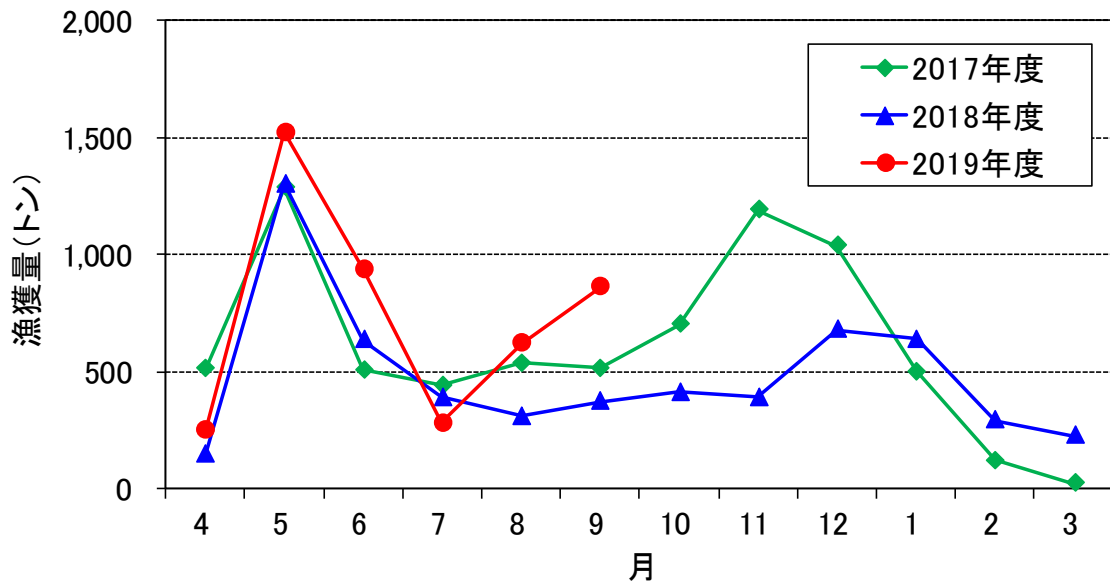


図9 2017年度～2019年度の兵庫県～新潟県におけるブリの定置網月別漁獲量の推移
(2019年度は9月まで)

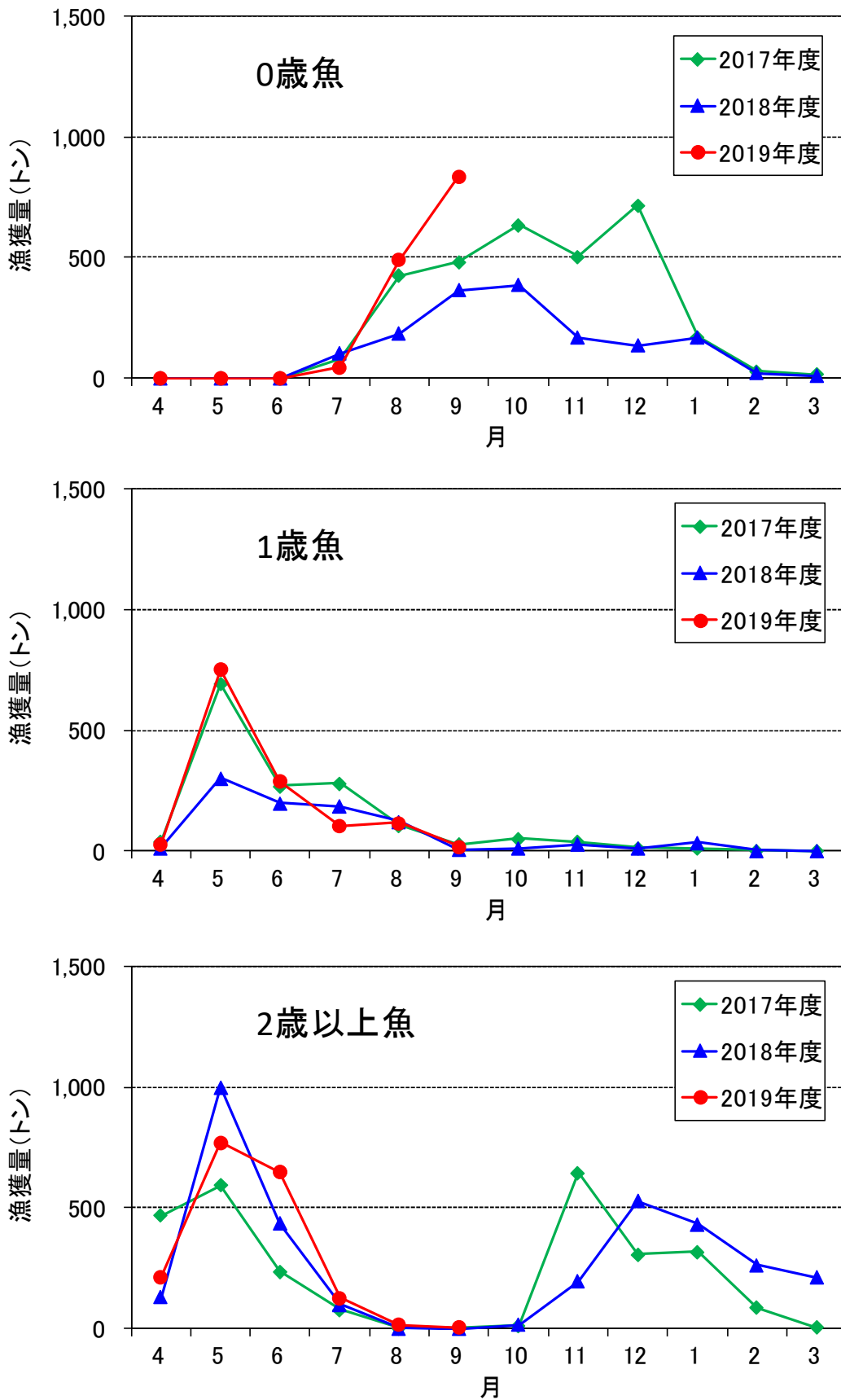


図10 2017年度～2019年度の兵庫県～新潟県におけるブリの定置網月別漁獲量の推移 (2019年度は9月まで)

参 画 機 関

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
秋田県水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産試験場	島根県水産技術センター
新潟県水産海洋研究所	一般社団法人 漁業情報サービスセンター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 西海区水産研究所
石川県水産総合センター	(取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構
福井県水産試験場	日本海区水産研究所
京都府農林水産技術センター 海洋センター	